

自己評価報告書

平成23年 5月 19日現在

機関番号：87501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2012

課題番号：20520608

研究課題名(和文) 瀬戸内海西部における阿弥陀信仰の歴史的展開の研究

研究課題名(英文) Study on historical development of belief in Amida in the western part of the Seto Island Sea

研究代表者

櫻井 成昭 (SAKURAI NARIAKI)

大分県立歴史博物館・学芸調査課・主任学芸員

研究者番号：80435916

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：阿弥陀信仰・地域間交流・村落構造

1. 研究計画の概要

(1)豊前・豊後国の浄土宗および浄土真宗の伝播過程を解明する。

①古代から中世における阿弥陀信仰との関わりを解明する。

②浄土宗および浄土真宗寺院の歴史と文化について、普遍性と特殊性を多面的に明らかにする。

(2)寺院・末堂の什物等を調査する。

①寺院の什物調査とともに、所在する地域の歴史を伝える資料調査を実施する。

②地域の信仰拠点となる仏堂についても所在確認とともに什物調査を実施する。

(3)寺院・末堂と地域との関わりを解明する。

①さまざまな行事を通じて寺院および末堂と地域社会とのつながりを解明する。

②寺院の門徒の分布範囲が、過去のいかなる地域とのつながりを反映するかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1)浄土宗および浄土真宗の拠点寺院の什物調査において、16世紀代に多い開基以前の製作とみられる仏像や絵画を確認した。

(2)末堂の調査でも、16世紀以前に製作された仏像などを確認した。

(3)資料調査によって、年中行事や門徒とのつながりなどを歴史的に知ることができる寺院を確認した。その一例として、覚正寺(日出町)の記録がある。これについては、翻刻公開した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

豊後水道沿岸における浄土宗および浄土真宗伝播の規準というべき什物を確認し

た。また、これまであまり調査が実施されていなかった地域の寺院・末堂についても、一定度の調査を実施した。なお、調査で得られた成果は、大分県立歴史博物館などでの講座で公開している。

4. 今後の研究の推進方策

(1)特定の地域をモデル地区として、阿弥陀信仰の遺産とともに、信仰の歴史的背景となる同地区にのこる歴史遺産の悉皆調査も実施する。

(2)未調査の地域もあり、豊後水道および周防灘沿岸を網羅する形で概要調査を実施する。

(3)研究成果について、大分県立歴史博物館での展示および各地などで講座を開催することを通して、広く公開する。

(4)瀬戸内海の交流に関する事柄についても、さまざまな点で記録化をおこなう。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

①櫻井成昭、浄土真宗寺院の年中行事、大分県立歴史博物館研究紀要、11、pp61～pp80、2010、査読無②櫻井成昭、近世の聖徳太子絵伝、大分県立歴史博物館研究紀要、12、pp64～pp78、2011、査読無

〔学会発表〕(計1件)

①平川 毅、近世の耕地開発に関する一試論、大分県地方史研究会、2008

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕